



北米ホーリネス教団  
オレンジ郡  
キリスト教会  
「週報」

2012年の努力目標

1. 朝の15分の祈りを大切に。
2. 1日2章の聖書日課に励む
3. 日ごとの写教に励む
4. 定期の祈り会に参加
4. 聖書研究・家庭集会への参加
5. 礼拝欠席の時は牧師に連絡を。

◎集会案内◎

日曜 礼拝 : 9:30~10:45am  
 コヒーアワー : 日曜日 10:45~11:15am  
 聖書の学び : 日曜日 11:15~12pm  
 みふみ会 : 水曜日 10am  
 定例祈禱会 : 水曜日 7:30pm  
 早天祈禱会 : 土曜日 7am  
 家庭集会 : 各地区に2箇所  
 牧 師 : 杉村 幸 (日本語部)  
 : 益田デーロ (英語部)  
 電 話 : (714) 827-6244 (教会)  
 : (714) 527-1456 (牧師館)  
 E-Mail : sugimura1950@gmail.com  
 教会ホームページ : www.occc.org  
 教会所在地 : 4872 Bishop St.  
 Cypress, CA 90630

石 叫 口

◎石叫■

「人生の妙味」

以下の文はわれらが佐藤裕士兄の作成したパンフレットからの引用である。このようなコラムを作って、彼は主イエス様の証しに用いているのである。

「衝撃的なニュースが飛び込んできた。左記はその概略である。

『南アフリカ・オリンピック委員会が7月4日、男子陸上で両足が義足のオスカ・ピストリウス選手(25歳)をロンドン・オリンピックの400メートルと1600メートル・リレーの代表選手に選んだと発表した。オリンピックに出場する初の義足選手となる』との一報であった。超一流のアスリートだけが挑戦できるオリンピックで、両足が義足でよくここまで訓練に耐えてきたものだ、三日坊主の私にはその苦勞を測り知ることができない。私は今から二十年ほど前にロサンゼルス・マラソンに出たことがある。約一年半、自己トレーニングをした。あの時は来る日も来る日も走っていた。家内は友人たちに、『わたし、マラソン・ウイドウよ』とよく言っていた。完走したとは聞こえが良いが、実のところ20マイル直前で左膝を痛め、びっこを引きながら、やっと5時間かけてゴールインした。『ゴール前 抜いた女性に また抜かれ』

こんな経験があるので、両足義足で走るなんて私には想像できないのである。

新約聖書の一節に、「けれども、私が自分の走るべき行程を走り尽くし、主イエスから受けた、神の恵みの福音をあかしする任務を果たし終えることができるなら、私のいのちは少しも惜しいとは思いません」とある。パウロという人物が書いた文章だが、彼のゴールは死であった。死をかけてでも価値あるゴールが世の中にはある、ということパウロは伝えたかったのである。そのゴールとはキリストと共に生き、キリストと共に走るということであった。42キロメートル。人生のゴールは天国である。あなたのゴールは何処であろうか。ゴールが決まれば、あなたの人生は豊かな走りになること間違いなしである」

佐藤兄のコラムは実に妙味がある。出だしが良いから注目する。「衝撃的なニュース」となると誰しもが注目するではないか。それに文の半ばで、しゃれた川柳とご夫人の嘆きを流すあたりは、実に心にくい配慮ではないか。彼は人生をオリンピックと見なしてゴールをしっかりと見据えている。だから自分自身を見失わないし、そこに余裕すら見える。そこに彼の人生の妙味があるようだ。

「オレンジ郡キリスト教会の歩み」

オレンジ郡キリスト教会は一九七七年に発足し、東洋宣教会・北米ホーリネス教団に所属するプロテスタント教会の一つです。北米ホーリネス教団は一九二一年に創立され、現在は日英両語合わせますと二千名を越える会員になります。

私たちの教会は一八世紀に、英国で始まったジョンウエスレーによるメソジスト教会の流れを汲みます。そして他のプロテスタント教会同様、三世紀以来告白され続けてきた使徒信条を、私達の信仰告白といたします。

